



▲フィリピン台風24号 / 2015年10月18日

アムダという名のボランティア

今回は特定非営利活動法人アムダ (AMDA) ボランティアセンター長:小池彰和氏を講師に、『AMDAという名のボランティア』をテーマに語っていただきました。

国際協力とは国際的な助け合い活動である。現在の日本は国際援助大国と言われ、現に2013年度のODAでは、約225億ドルが使われている。これは米国に次いで世界第2位。しかし、1945年敗戦後、特にコロンボプラン（東南アジア諸国に対する国際支援同盟）に加盟した1954年までの9年間に日本一国が世界から受けた援助は毎年ほぼ同額に匹敵したことを明記せねばならない。

敗戦後、飢餓と疫病が懸念された時期には、食糧、衣料、医薬品、学用品などの生活必需品の援助を受け、その後の復興時期には世界銀行融資、災害復旧支援などの国際援助が続いた。例えば、

- ララ (LARA) アジア救済公認団体
- ユニセフ (UNICEF) 国連児童基金
- ケア (CARE) アメリカの NGO
- ガリオア (GARIOA・EROA) (占領地域救済基金・復興基金)
- 世界銀行借款

多奈川発電所、愛知用水事業、黒部第4発電所、東海道新幹線、高速道路（東京、静岡）第二次世界大戦に敗れ疲弊しきっていた日本は、上述した国際援助に支えられて復興の端緒を切

り、1990年には世界銀行借款を完済、名実ともに被援助国から援助国へと脱皮することが出来た。

更に2011年3月11日に発生した東日本大震災では、海外の174の国、地域から多額の物的援助のほか義援金約1639億円を受領



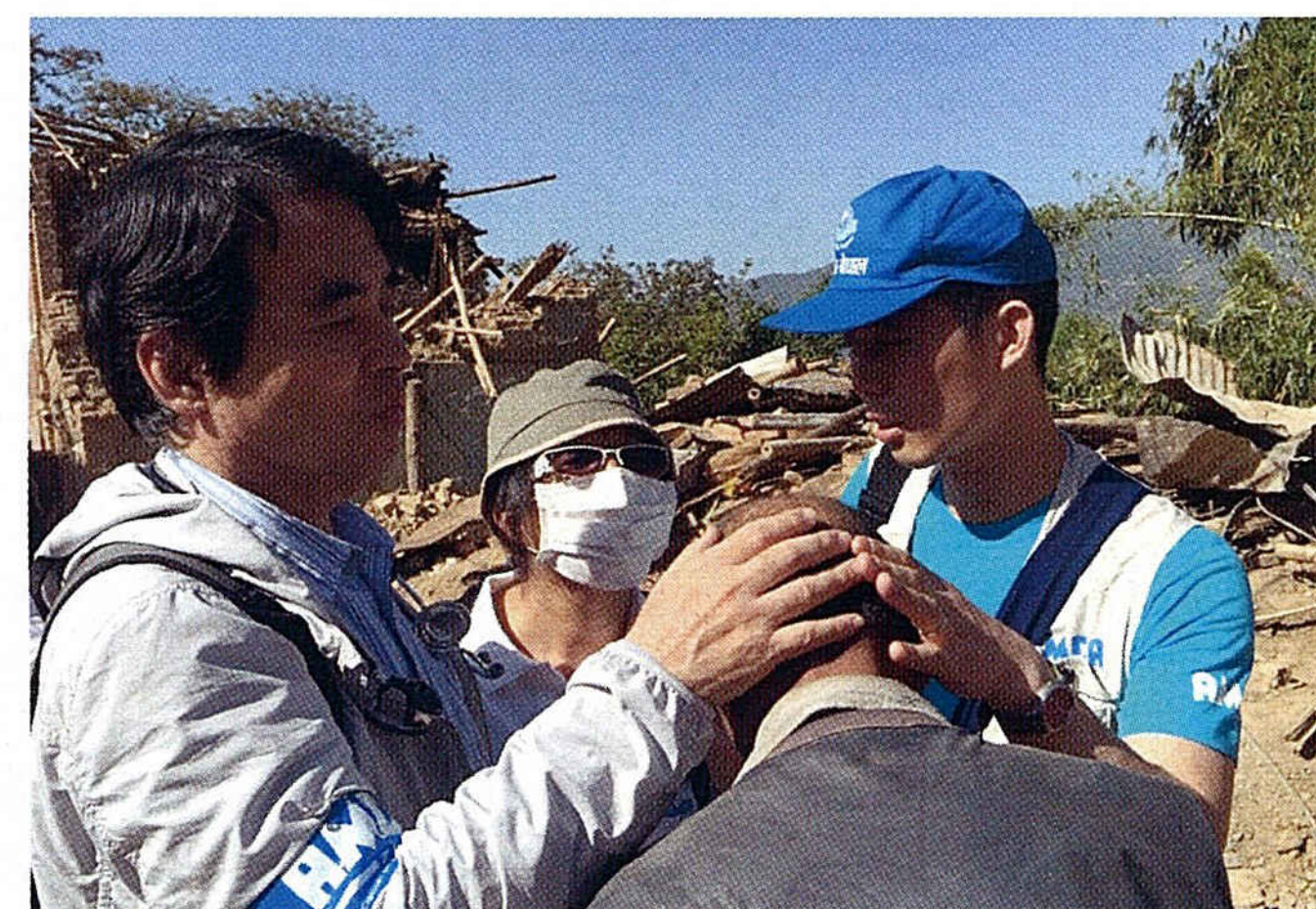
▲宮城県仙台市内の避難所



▲台湾粉塵爆発 / 2015年6月27日

している。

エネルギー源をはじめ多くの天然資源や食糧を海外に依存せねばならない日本にとっては、国際協力を通じて相互扶助（困った時はお互いさま）と安定を願い、世界の平和に貢献することこそ日本が生きる為の唯一の選択肢である。



▲ネパール中部地震カトマンズ郡ダーマストラの様子 / 2015年5月3日



▲フィリピン台風24号 / 2015年10月18日 井戸用手押しポンプ

【今アムダは何をしているか?】

AMDA医療チーム受け入れの為の

南海トラフ地震対策 10 委員会

南海トラフ地震に対してあらかじめ準備、組織作りをしておこうと考え、私達はアムダ医療チーム受け入れの為の 10 個の委員会というのを組織して、そしてこれらの自治体と私達は連携を進めています。

様々な分野でいざと言う時にどういう風に連携をしようか? 医療チームをどういう風に送り込もうか? どこに送り込もうか? というような事を自治体とそれぞれ連携を進めています。

1ヶ月前にシミュレーションをしました。橋が使えないという状況で、船を動かし、ヘリコプターを動かし、様々な問題点をあぶり出すことをやりました。

今、我々が考えているのは、四国での救援の本拠地を丸亀に置くと言う事です。色々考えてみて丸亀が本拠地を置くのに一番適しているだろうと。世界中から色々な医療チームが来るのも、行くのも丸亀が一番適していると言うことが言えます。そういうことで南海トラフに対しても様々な準備をしています。

【アムダ (AMDA) とは】

認定特定非営利活動法人アムダ [通称: AMDA]
 英文名 / The Association of Medical Doctors of Asia [略称: AMDA]

- 1984年に岡山で設立。
- 特定の母体組織を持たない独立した非営利民間組織。
- 寄付金と会費、民間助成金で運営。
- 国連経済社会理事会総合協議資格を有する。
- 国連が認めるボランティアの中で日本で唯一医療ボランティアとして資格を持っているのはアムダだけである。

【創始者】

創始者菅波茂は、現在70歳の医師。彼が高校2年の時、1枚の写真に出会った。当時ちょうど自分と同じ年頃の一人の日本人兵士が海岸の浅瀬に顔を半分突っ込んで死んでいる写真だった。その悲惨な写真に心を打たれ、何としても平和な世の中に自分は協力していきたいと医師の道を志した。



▲ネパール中部地震 / 2015年4月25日

【アムダグループ】

1. 特定非営利活動法人 アムダ
2. 特定非営利活動法人 AMDA 開発機構
3. アムダ国際福祉事業団
4. 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター (東京)

(出来るだけ母国語で診療にあたる。)
 (現在8ヶ国語で診療)

【菅波代表の国連での体験】

菅波氏曰く、国連で海外の国々と折衝するのに一番尊敬されるのが有言実行

最も尊敬されるのは⇒有言実行
 (言った事は実行する)

次に尊敬されるのは⇒有言不実行
 (言う事は言うが何もしない)

次に尊敬されるのは⇒不言不実行
 (何も言わないかわりに何もしない)

最も尊敬されないのは⇒不言実行
 (だまって何でもやる)

不言実行は日本人の考え方では、悪いと思わないが、国際的に最も嫌われ最も尊敬されない。

1990年以降、外務省は国際的にお金を使う時は必ず発表してから使う。だからPKOとか海外に自衛隊を派遣しているが、全部こういう目的でいつからいつまでどういう事をやりますということを国際的に発表した上で、実行している。そういう意味で不言実行というのは世界でも認められるものではないということです。

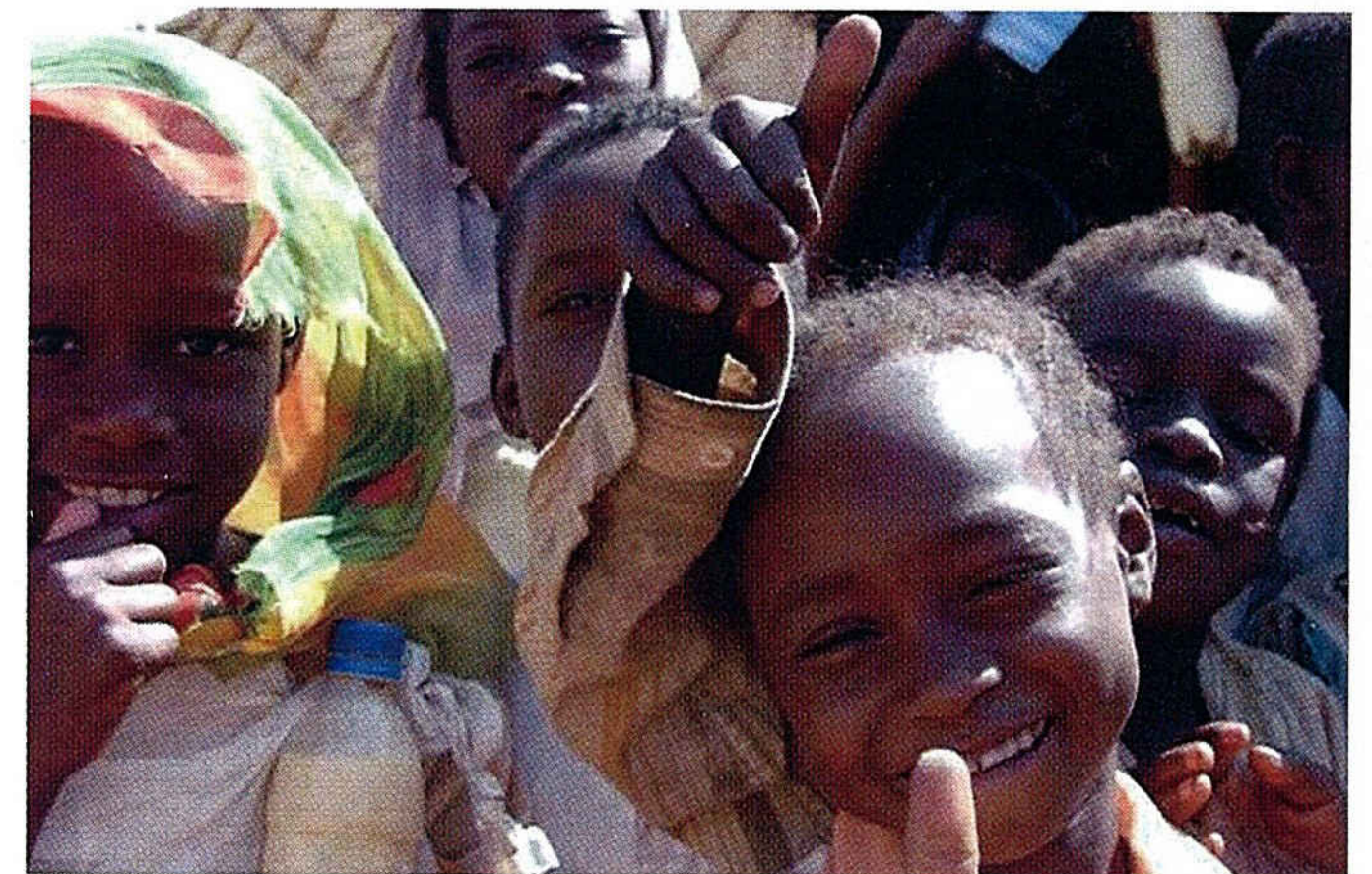
アムダは海外に医療チームを派遣する時、行った事のないような所で、顔も知らない人々の所へ飛び込んで行きます。その時のキープレーズがある。

「今、来ました。皆さんお困りですから世界中の仲間を集って医療の援助で来ました。どうぞ私達の診療を受けて下さい。その代わりもしも日本が困った時は来て下さい。」

この一言が大切なんです。目的をはっきりして実行に移すことが大切だという事を国際的に勉強させられた。

【AMDAの国際人道支援活動】

- 紛争、災害時の緊急医療救援
- 緊急医療救援後の復興医療支援
- 医療ミッション



- 医療和平プロジェクト
- 医療と魂のプロジェクト
- 市民参加型人道支援外交
- 岡山国際塾
- 世界30カ国 AMDA 支部の統括
- 機関誌発行、活動報告会や各種イベント参加など

【AMDA 人道援助の三原則】

1. 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。
 (困った時はお互い様=相互扶助)
2. この気持ちの前には民族、宗教、文化などの壁はない。
 (差別しない=多様性の共存)
3. 援助を受ける側にもプライドがある。
 (自分達も人の役に立ちたい。ローカルイニシアティブ)

【AMDA 活動の流れ】

災害が発生すると72時間以内に現地に入りたい。人間というのは、飲む水さえあれば1ヶ月は生きられる。だけど飲む水がないとだいたい1週間でおしまいになるそうです。特に72時間(丸3日)の間に何らかの手を打ってもらわないと死亡率が非常に高くなるそうです。したがって72時間以内に現地に入ろうというのが私達の鉄則で、それを実行してきました。

海外ではなかなか72時間で到達出来ない所もありますが、阪神淡路大震災の時もその日のうちに入りました。東日本大震災の時も次の日には仙台に入っています。そういう形で一刻も早く活動を開始するという事をしております。

私達は30ヶ国に支部を持っており、常に支部の力が非常に大きく、多国籍医師団と称する海外の医師にも参加してもらっています。だいたい2週間、長くて1ヶ月位で私達の活動は終わりにします。

私達が、入っていくのはとても歓迎されるし、私達も活動の意義を感じているのですが、現地には現地のお医者様がいるわけで、最初は被災者になって診療所や病院をなくした先生方も1ヶ月位経つと仮の病舎を建てたりして保険診療が日本の場合始まります。保険診療が始まった時に、アムダのような存在は逆にもう具合が悪い訳です。保険診療がだいたい50%以上始まった後に私達は引き上げます。その後は緊急救援活動か復興支援活動というのにな変わっていきます。復興のお手伝いという形に入ります。

現在東日本大震災の場合、最初の3年間の支援期間が終って、今4年目に入っています。そういう形で我々は活動している。



▲ロールケーキの炊き出し



▲一番喜ばれた鍼灸治療

「東日本大震災での活動」



▲大槌町「健康サポートセンター」の設立、支援。
みのもんたさんも参加



▲巡回診療に大活躍中の総社市貸与の電気自動車

東日本大震災（2011年3月11日）

●AMDA 緊急医療支援活動

医療チームの活動場所 岩手県釜石市
岩手県大槌町
宮城県仙台市
宮城県南三陸町

●緊急医療の派遣と物資便

延べ149名／医師51名、看護師33名、准看護師2名、助産師4名、薬剤師3名調整員50名、心理士2名、介護スタッフ2名、鍼灸師2名

物資トラック／アムダ事務所より物資便7便、総社市、アムダ合同物資便2便、茅ヶ崎中央ロータリー物資便2便、その他新潟より物資便5便、他業者発注依頼、被災地への直送便多数

●鍼灸治療室の設置と巡回治療／この時一番喜ばれたのは鍼灸治療で我々が派遣した鍼灸師と地元の鍼灸師の応援もいただいた。

●巡回診療活動

現地では電気もガソリンもなく困り総社市に頼んで電気自動車2台を海路で運んでもらい、この自動車で行く巡回診療活動をした。

●様々なレクリエーションを計画、プログラムを実施。

- ・子供達におもちゃの寄贈。
- ・ケーキ職人を現地に呼びロールケーキを作って皆に振舞う。
- ・歌の処方箋プログラム

●同世代間交流

絆コンサート、高校生交流会、サッカー親善。

AMDA の活動におけるキーワード

1. 開かれた相互扶助：困った時はお互い様。

助けられる側のプライドを傷つけない

2. 多様性の共存＝平和の礎

違いは財産。違いは違いとして認める。

3. ローカルイニシアティブ

＝現地主導という考え方

現場のことは現場の人が最もよくわかっている

4. 説明性

説明のない親切は警戒される

(不言実行はダメ)

5. メッセージ性

被災者の気持ちは、見離されたくない、必要とされたい。被災者の気持ちに添う為には、こちらの気持ちをしっかり込めたメッセージを伝える事が大切。

6. AMDA の活動様式→ネガティブリスト

ポジティブリスト→決められた規定の中で行動する(一般)

[ネガティブリスト]

- ①被災者に迷惑をかけない
 - ②医療事故を起こさない
 - ③他の派遣者の創意工夫を邪魔しない
- 以上3つの事を守れば何をしてもいい(アムダの行動基準)

7. 人間関係の考察

人権とは存在に敬意を払うこと

①Friendship フレンドシップ(敬愛)

気が合えば友達同士ありがとうと言わなくても分り合える。

②Sponsorship スポンサーシップ(畏敬)

スポンサーがいて、その受益者がいる。受ける側がスポンサーに対してありがとうの一方通行。

③Partnership パートナーシップ(尊敬)

アムダのキーフレーズ

共に活動し苦勞することから尊敬が生まれる。

「苦勞を共に乗り越えられる関係こそが真のパートナーシップ、信頼関係の形成に不可欠と考えています。」

「パートナーシップの基本は決して逃げない。」

菅波氏が国連の会議でアムダの話をするように言われた。国連として知りたいのは何故アムダが

人助けの世界へ入り込んだのかという事。

だいたい欧州にはキリスト教というバックボーンがある。従って施しの世界と言うのは富める者が貧しき者に施しをするというキリスト教の精神として受け継がれて教えられているものである。それを国際的に広げているのが、国際援助という形になっている。

ところがアムダを見るとアジアの一員だ。アジアは文化も歴史も宗教もバラバラ。そういう中で何一つ統一するものが無い所で、何で多国籍の医師同士が集まって救急救援をしているんだ。

その理由を知りたいと言われ菅波氏はこの人間関係の話(フレンドシップ、スポンサーシップ、パートナーシップ)をした。それでアムダはこのパートナーシップの世界というのを相互扶助の世界の中で築いてきたという事を言い、たくさんの拍手をもらった。

その時ある人が立ち上がり、どうしたらフレンドシップの関係をパートナーシップに移行出来るのかと質問がきた。そこで彼は、

「あなたと私はその気になれば今日からでもお友達になれます。だけど私が例え経済的であれ、人間的であれ、とことん困った時、あなたはどこまで私を助けてくれますか。あなたが私を見離したら途端にフレンドシップの関係はありません。従ってパートナーシップの世界というのは苦勞を共にする、相手を見離さない、忘れない、見捨てないという関係を作るということは、(フレンドシップを深めていくということは、その通りなんだけど)簡単には作れるものではない」という話をした。大変な拍手を頂いたそうです。



▲ミャンマー洪水／2015年7月

8. 人生喜びの方程式

意欲 + 能力 + 機会 = 自己実現 (よろこび)

- ① 自己実現のよろこび
- ② 自己表現のよろこび
- ③ 感謝のよろこび

人間何かをしたいという時に必ず意欲というものを持っています。この意欲を達成する為にさまざまな能力を身につけます。この二つが揃ってもそれを実行する機会が与えられないと人としての喜びにつながらない。

世の中機会に恵まれるということは、非常に大切です。私達 30ヶ国に仲間がいる。ほとんど途上国の先生方ですが、先生方も自分の国以外に広く人の為に役立ちたい気持ちを持っている。しかしさまざまな経済的な理由などがあって、意欲も能力もあるが、海外の緊急救援にまで飛び出していく機会が与えられていない。

アマダはその機会を提供している。給料こそ出ませんが、先生方にかかる実費は提供しているので、先生方は私達の海外活動によることで国境を越えて、アマダ多国籍医師団に参加してくれます。そして先生方は自分達の自己実現というものを実感して戻っていくのです。

2004年10月新潟県中越地震の時、私達は医療チームを派遣したが、新潟県から医療事

情は間に合っている。わざわざ岡山から来てくれてありがたいが、なんとか出来るからと、医療の援助は実現出来なかった。でも、何かあるはずだと思い調べてみたら、老人保健施設です。これが援助なしに放置されていたのです。例えば、ここに通っている職員だって被災者なのです。自分の家の事だってある。余震は次々ある。施設の老人達がそれぞれの個室に入ると目が届かない。だから余震が来る間中、皆、一室に集めて面倒を見させていただいた。

この保健施設で働く職員がとても疲労困憊した。私達がこの施設で働く職員を助けるために、菅波氏は倉敷の仲間に声を掛け、現地へたくさんの介護専門の職員を派遣した。1週間交替で7回私達は職員を運びました。その時倉敷から行った一人の介護福祉士の方がこの言葉を述べた。

「職業として私は介護士の道を選びました。お蔭で私は生活出来ています。しかし今回ボランティアとして新潟に派遣され、自分の職業選択に間違いがなかったと自信を深めることが出来ました。人様のお役に立てるこの仕事に誇りを感じています。「ありがとう」と、たくさんの言葉をいただきましたが、お礼を申し上げたいのは自分の方です。本当にありがとうございました。ボランティ

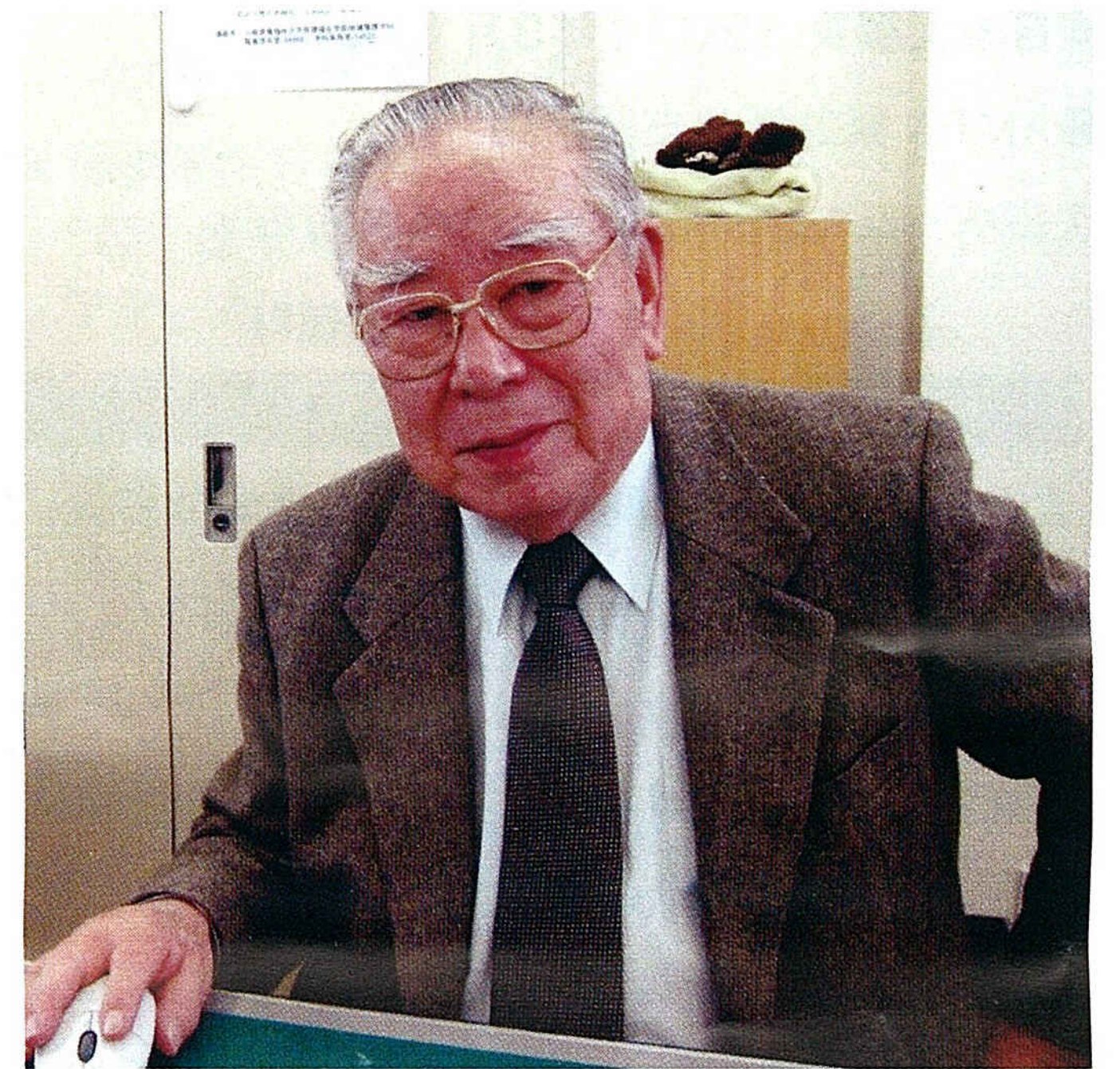
アに駆けつけた事により、自分の経験も深まり、人としてなんか一回り大きくなった様な感じを持つことが出来た。そして何かあったら又行きたいという自分の中で燃える様な気持ちも体験する事が出来た。お礼を申し上げたいのは自分の方だ。」

これがボランティアとしての本当の言葉ではないかと思えます。

ボランティアの心構え

人は誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。最後にボランティア活動とは

- 自分にできることをできる範囲とする。
- 決して無理をしてはいけない。
- ボランティア活動は楽しくなくてはならない。
- 個人で出来なければ、グループに入る方法もある。
- 募金は自分達に代わって活動してくれる人を応援する手段である。



[講師プロフィール]

特定非営利活動法人アマダ (AMDA)
ボランティアセンター長

小池 彰和 (こいけ あきかず)

- 昭和6年 東京生まれ
昭和20年 3月から9月まで新潟県に疎開
昭和28年 東京外国語大学中国語科 卒業
石川島重工業株式会社 (現在のIHI) に入社
以後40年に渡り同社にて主として大型船舶の輸出営業に従事。
この間にニューヨーク、香港、北京に計11年駐在したほか、世界各地に出張して商談に当たる。
- 平成7年 岡山市に移住
平成9年 企業経験を生かして、AMDAの活動に参加。
総務局長、ついで会員情報局長に就任。
この間にミャンマーこども病院の定礎式とインドネシア洪水災害緊急医療救援活動に参加。
- 平成14年 7月よりシニア・ボランティア・アドバイザーに就任
広報活動に従事して現在に至る。
- 信条：日本は友好的国際関係を確立するしか立国の道はない。



▲ジャワ島地震 / 2006年

ASA
倉敷販売

朝日新聞の毎月の購読料のお支払いは
クレジットカード、口座振替が便利です!!